論文

今日におけることわざや俳句を用いた保育のあり方に関する
―考察－幼稚園教育要領解説の分析・考察を通して―

森 英子[1)]・前田 信美[2)]・紺谷 遼太郎[3)]・横松 友義[4)]

キーワード：ことわざ，俳句，文化，幼稚園教育要領，カリキュラム・マネジメント

Ⅰ．研究目的

2016 年 12 月 21 日に公表された中央教育審議会答申[(1)]では，伝統を継承して文化を大事にするという観点から，「伝統」と「文化」が重視されている。幼児教育においても，「『社会に開かれた教育課程』の重要性を踏まえ，自然に触れたり，我が国や地域社会における様々な文化や伝統に触れたり」することが重視され，幼児教育に続く小学校教育においては，「言語能力を向上させるとともに，古典に関する学習等を通じて，日本人として大切にしてきた言語文化を積極的に享受していくこと」によって，「我が国の伝統や文化を語り，継承していける」ようになっていくと考えられている。こうした日本の言語文化を享受する実践は，保育の分野においても行われており，その中に，カルタや絵本という形で，ことわざや俳句を用いる実践をあげることができる。そして，現在の幼児教育においては，小学校教育との連携（接続）が以前よりも重視されているので，ことわざや俳句を用いた保育には，今まで以上に注目する必要があると考えられる。

先行研究としては，俳句歳時記が保育内容「環境」の保育力を培うためのガイドブックとしていかに適しているかを研究した，田中（2018）[(2)]の「保育内容「環境」の保育力を培うためのガイドブックとしての俳句歳時記」や新幼稚園教育要領の中に示されている領域「言葉」の内容に焦点化しつつ，それ以降の学校教育との連接や連携について，特に言語文化の視点を踏まえて研究をした，高野（2018）[(3)]の「新「幼稚園教育要領」における領域「言葉」の学びの内容と課題 － 言語文化の視点から －」がある。

しかし，今日の保育園・幼稚園・認定こども園には，国の教育課程基準の実現を目指すカリキュラム・マネジメントの導入が求められていることを考えれば，ことわざや俳句を用いた保育について，最初に，国の基準に基づけば，どのようなねらいでどのような内容で何を

1) 2) 山陽学園短期大学こども育成学科
3) くらしき作陽大学子ども教育学部子ども教育学科
4) 岡山大学学術研究院教育学域

考慮して保育を展開することが求められるのかについて，基本的なことを明らかにする必要がある。そこで，本研究では，その解明を目的とする。

Ⅱ．研究方法

まず，前述中央教育審議会答申の中のことわざや俳句を用いた保育を規定する関係記述と，ことわざや俳句を扱うカルタや絵本の解説文を分析し，ことわざや俳句を用いた保育に関係するキーワードを抽出し選定する。次に，選定したキーワード及び同じ意味内容をもつ言葉を含む文を幼稚園教育要領から抽出し分析した上で，ことわざや俳句を用いた保育に関する基本的考え方について考察する。

Ⅲ．キーワードの選定

１．中央教育審議会答申の中からのことわざや俳句を用いた保育を規定するキーワードの選定

まず，前述の中央教育審議会答申[(4)]の中の「学校教育を通じて子供たちに育てたい姿」と幼児教育に関する記述を分析した。その結果，ことわざや俳句を用いた保育を規定する記述は，表１のように２ケ所ある。その記述より，「伝統」，「文化」というキーワードを選定した。（表１参照）

表１　2016 年 12 月 21 日公表の中央教育審議会答申からのキーワード候補の抽出

出所	関　係　記　述	キーワード候補
p. 13	・社会的・職業的に自立した人間として，我が国や郷土が育んできた伝統や文化に立脚した広い視野を持ち…（略）	・伝統 ・文化
p. 79	・「社会に開かれた教育課程」の重要性を踏まえ，自然に触れたり，我が国や地域社会における様々な文化や伝統に触れたり	・文化 ・伝統

※　　部分は，キーワード候補

２．ことわざや俳句を扱うカルタや絵本の解説文からのキーワードの選定

次に，「ことわざ」あるいは「俳句」と「幼児」あるいは「保育」をキーワードとして使いインターネットで検索し，広く幼児や幼児教育の現場で使える本・絵本・かるたを選び，さらにその中で，ことわざや俳句に関する解説文が掲載されているものが，表２の六つの文献である。

それらの解説文から，ことわざや俳句の特徴を表す文章を表２の「関係記述」欄に抽出した。さらに，抽出した文章からことわざや俳句の特徴を表すキーワードに網掛けをして「キーワード候補」欄に抽出した。

その上で選定したキーワードが，「教訓」，「風刺」，「いいならわされ」，「知恵」，「[日本語 or 言葉] and [リズム or すばらしさ or 美しさ]」，「言い伝え」，「季語（季節）」である。「季語（季節）」について，「季語」とは，俳句に入れられる特定の季節を表す言葉であるので，季節を表すという意味，または「季節」に置き換えるという意味で，（季節）という形で一つにまとめている。

表２　ことわざや俳句を扱うカルタや絵本の解説文からのキーワード候補の抽出

出　所	関　係　記　述	キーワード候補
西本鶏介[5]「「ことわざ」を楽しむ」（表紙カバーそで），『ことわざのえほん』鈴木出版，2003。	・教訓や風刺をふくむことばとして昔から広く世間でいいならわされてきたのが「ことわざ」と「格言」です ・庶民感情をふまえた生活の知恵や人生の真理がたくみに表現されています ・動物の特徴や人間のからだやお金，自然現象など，だれにでもわかりやすく子どもでも充分理解することができます ・ことばのリズムとその意味の面白さから昔の人たちのすぐれた知恵を自然に学ぶことができます	・教訓 ・風刺 ・いいならわされ ・知恵 ・ことば…リズム
西本鶏介[6]「おうちの方へ「かるたでことわざを覚える日本のことわざかるた」」（解説文）『日本のことわざかるた』ポプラ社，2002。	・教訓や風刺をふくむことば ・昔から広く世間でいいならわされてきたのがことわざと格言 ・長い経験の積み重ねから得た生活の知恵や人生の真理がだれにもわかりやすく表現されている ・庶民の感情を鮮やかにとらえていて，動物の特徴や人間のからだやお金のこと，さらには自然のかかわりなど，時代環境を越える説得力があり，まるで自分のことを言われているような気がします	・教訓 ・風刺 ・いいならわされ ・知恵
玉川学園編[7]『日本のことわざ物語２』玉川大学出版部，pp. 2-3，1985。	・いましめ ・仕事のことを教えたり， ・天候までも教えています ・昔から言い伝えられて，今に伝わっている ・短いことばで，調子良く，誰でも覚えやすいようになっています ・日本人のすばらしいちえのかたまり ・日本語のすばらしさや，美しさにも気づき ・昔の日本人のちえも知ることができる	・いましめ ・言い伝え ・ことば ・日本語…すばらしさ ・ちえ ・日本語…美しさ
世界文化社グループ SEKAIBUNKA.COM 編集担当 M[8]「担当編集者からのおススメの一言」（『ことわざあいうえおかるた』の解説文），http://www.sekaibunka.com/book/exec/cs/05839.html。（情報取得 2017/1/20）	・かるた遊びは日本の遊び文化の最高傑作です ・「ことわざ」は日本人の生活の知恵そのもの ・子どもたちから世代を超えておじいちゃん，おばあちゃんまで一緒に楽しんでいただけます	・日本の…文化 ・知恵
西本鶏介[9]「私の新刊『続はいくのえほん』西本鶏介・編・文　清水耕蔵・絵--幼児も楽しめる俳句の本」『こどもの本』31(4)，日本児童図書出版協会，p. 2，2005。	・俳句によって季語のすばらしさや日本語の美しさを早くから知ることができました。そのリズムと語感は子どもであっても実に親しみやすい	・季語 ・日本語の美しさ ・リズム ・語感
塩見恵介監修[10]『俳句・短歌・歳時記大事典』あかね書房，pp. 2・48，2015。	・リズムを通じて ・短歌や俳句は言葉のデザインです ・季語は，豊かな四季の中で人びとが，先人の思いと照らし合わせながら，多くの意味をもたせてきました ・十七音の中に季節をあらわす「季語」を入れるルールがあります	・リズム ・言葉 ・季節 ・季語

※　　部分は，キーワード候補

Ⅳ.『幼稚園教育要領解説』から抽出されたキーワードを含む記述の分析と考察

1.『幼稚園教育要領解説』におけるキーワードの抽出総数

『幼稚園教育要領解説』[11] よりⅢで抽出した各キーワードを抽出し，抽出されたキーワードを含む記述数を示したのが表３である。まず，「文化」が 29 箇所あり，キーワードの中で一番多く掲載されていた。次に多いのは，「季語（季節)」で，23 箇所であった。ただし，「季語」の掲載はなかった。３番目は「伝統」が 22 箇所であった。４番目は，「言葉の…美しさ」が７箇所であった。５番目は，「美しい言葉」で５箇所であった。６番目は，「言葉の…リズム」で４箇所の掲載があった。続いて「知恵」で２箇所あった。また，「教訓」，「風刺」，「いいならわされ」，「日本語の…リズム」，「日本語の…すばらしさ」，「日本語の…美しさ」，「言葉の…すばらしさ」，「言い伝え」の８つのキーワードの掲載はなかった。よってキーワードは，「文化」，「季節」，「伝統」，「言葉の…美しさ」，「美しい言葉」，「言葉の…リズム」「知恵」とした。

表３『幼稚園教育要領解説』からのキーワードの抽出回数

キーワード	掲載総数
文化	29
季語（季節）	23
伝統	22
言葉の…美しさ	7
美しい言葉	5
言葉の…リズム	4
知恵	2

キーワード	掲載総数
教訓	0
風刺	0
いいならわされ	0
日本語の…リズム	0
日本語の…すばらしさ	0
日本語の…美しさ	0
言葉の…すばらしさ	0
言い伝え	0

2.『幼稚園教育要領解説』から抽出されたキーワードないし同じ意味内容を含む記述の分析と考察

選定したキーワード及び同じ意味内容をもつ言葉を含む記述を『幼稚園教育要領解説』から抽出し整理したのが表４である。

まず「文化」では，「我が国や地域社会における様々な文化」「身近な地域社会の文化」「様々な出来事や暮らしの中の文化」「長い歴史の中で育んできた文化」「異なる文化」が取り上げられている。そして，「文化」に「親しむ」「親しみを持つ」こと，「触れる」こと，「触れることを楽し」むことや「十分触れて，ときには豊かな体験をする」こと，「豊かさに気づく」こと，「感じ取る」ことなどがあげられている。さらに，「文化」に「関する教育の充実」や「継承である」こと，「文化」に「関する地域の人材」や「身近な文化財」をあらわしている。

「季節」では，「季節などの周囲の状況の変化」「自然や季節の変化」「季節により自然や人間の生活に変化」「季節の行事」「季節に応じた自然環境」「季節感を取り入れた幼稚園生

活」「季節感のある遊び」が取り上げられている。そして，「季節」の「変化のあることに気付く」ことや，「変化を感じる」こと，「季節などに適切に配慮する」ことがあげられている。

「伝統」では，「我が国の伝統的な遊び」「我が国や地域社会における様々な文化や伝統」「地域の文化や伝統」「四季折々の地域や家庭の伝統的な行事」「我が国や地域社会における様々な文化や伝統」「各地域には，それぞれ永年にわたって培われ，伝えられた文化や伝統」「身近な地域社会の文化や伝統」「日本やその地域が長い歴史の中で育んできた伝統」「我が国の伝統的な行事」「幼稚園生活で親しんだ伝統的な遊び」が取り上げられている。そして，それらの「伝統」に「親しむ」ことや「親しみを持つ」こと，「触れる」こと，「豊かさに気付く」ことがあげられている。そして，「伝統」と同じ意味内容をもつ記述として「地域に伝わる民話や伝承的な遊びに詳しい方を招いたり」もあった。

「言葉の…美しさ」では，「言葉の楽しさや美しさ」「言葉の音がもつ楽しさや美しさ」「言葉の音の響きの美しさ」が取り上げられている。そして，「言葉の…美しさ」に「気付く」ことや「感じ」ることがあげられている。そして，「言葉…リズム」では，「生活の中で言葉の響きやリズム」や「言葉の音を繰り返すリズム」が取り上げられている。そして，「言葉…リズム」に「触れる」こと，「興味をもったりする」ことがあげられている。

「美しい言葉」では，「美しい言葉」を「用い」ること，「出会う」こと，「触れる」ことが取り上げられている。

「知恵」では，「知恵を出し合う」ことがあげられている。また，「知恵」と同じ意味内容をもつ文章として「高齢者の豊かな体験に基づく話」があり，高齢者の知恵の詰まった話ともいえる。

表４『幼稚園教育要領解説』における「ことわざや俳句」の特徴を表すキーワードを含む具体的記述とその掲載回数

「ことわざや俳句」の特徴を表すキーワード	具体的記述	掲載回数
文化	・伝統や文化に関する教育の充実（p 4） ・文化や伝統に親しむ（p 8） ・異なる文化に触れる（p 8） ・様々な出来事や暮らしの中の文化的な事物や事象（p 11） ・人間の文化の継承である（p 30） ・地域の行事や様々な文化に触れることを楽しんで（p 63） ・日本やその地域が長い歴史の中で育んできた伝統や文化の豊かさに気付いたりする（p 134） ・地域の文化や伝統に十分触れて，ときには豊かな体験をする（p 134） ・我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。（p 200） ・我が国や地域社会における様々な文化や伝統に触れ（p 200） ・長い歴史の中で育んできた文化や伝統の豊かさに気付く（p 200） ・身近な地域社会の文化や伝統に触れる（p 200） ・異なる文化にも触れる（p 200） ・文化や伝統に親しみをもつ（p 211） ・文化や伝統に関係する地域の人材（p 211） ・様々な事物や事象，文化から感じ取る（p 234） ・絵本，物語などのような幼児にとって身近な文化財（p 244） 他	29

季節（季語）	・季節などに適切に配慮する（p 79） ・自然や季節の変化など（p 101） ・季節などの周囲の環境の変化や行事なども（p 105） ・季節に応じた自然環境が必要（p 159） ・季節の行事にふさわしい食べ物（p 161） ・季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く（p 197） ・季節感を取り入れた幼稚園生活を体験する（p 197） ・日々の生活の中で季節の変化を感じる場面に出会う（p 197） ・幼児が季節の変化に気付いていくようにする（p 197） ・季節感のある遊びを取り入れたりする（p 197） ・季節による自然や生活の変化を感じる（p 197） ・季節の変化や自然事象と深く関わる（p 256） 他	23
伝統	・各地域には，それぞれ永年にわたって培われ，伝えられた文化や伝統がある（p 134） ・日本やその地域が長い歴史の中で育んできた伝統や文化の豊かさに気付いたりする（p 134） ・地域の文化や伝統に十分触れて（p 134） ・四季折々の地域や家庭の伝統的な行事に触れる（p 197） ・我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ（p 200） ・身近な地域社会の文化や伝統に触れる（p 200） ・幼稚園生活で親しんだ伝統的な遊びを（p 200） ・我が国の伝統的な遊びに親しんだり（p 211） ・四季折々に行われる我が国の伝統的な行事に参加したり（p 211） ・伝統的な遊びをしたり（p 211） ・文化や伝統に親しみをもつ（p 211） 他	22
［同じ意味内容を持つ言葉］ 伝承的な遊び （「伝統」）	・地域に伝わる民話や伝承的な遊びに詳しい方を招いたり（p 264）	1
言葉の…美しさ	・言葉の楽しさや美しさに気付いたり（p 214） ・言葉の音の響きの美しさもある（p 221） ・言葉の音がもつ楽しさや美しさに気付く（p221） ・言葉の響きや内容に美しさを感じ（p 221） 他	7
美しい言葉	・美しい言葉を用いて優しく語り掛けたり（p 111） ・楽しい言葉や美しい言葉に出会う（p 221） ・美しい言葉や韻を踏んだ言い回しなど（p 229） ・美しい言葉に触れ（p 229） 他	5
言葉の…リズム	・生活の中で言葉の響きやリズム（P9） ・言葉の音を繰り返すリズムの楽しさ（p 221） ・幼児が生活の中で，言葉の響きやリズム，新しい言葉や表現などに触れ（p 229） ・遊びや生活の中で様々な言葉に出会い，その響きやリズムに興味をもったりする（p 229）	4
知恵	・知恵を出し合ったりする関わり方（p 183） ・知恵を出し合うことではない（p 183）	2
［同じ意味内容を持つ言葉］ 高齢者の豊かな体験に基づく話 （「知恵」）	・地域の高齢者を幼稚園に招き，例えば，運動会や生活発表会を一緒に楽しんだり，昔の遊びを教えてもらったり，昔話や高齢者の豊かな体験に基づく話を聞いたりする（p 181）	1

※　　部分は，研究対象活動と判断した根拠となるキーワード。（　）内は，ページを表す。

３．『幼稚園教育要領解説』における「ことわざや俳句を用いた保育」のねらいについての考察

『幼稚園教育要領解説』から抽出したキーワードを含む記述の中より，「ことわざや俳句を用いた保育」のねらいとなる内容を表５にあげた。

表５『幼稚園教育要領解説』における「ことわざや俳句を用いた保育」のキーワードの入った記述の中でねらいとなる箇所の抜粋

所　在	キーワード	本　　文
序章 第１節 改訂の基本的な考え方 １ 改訂の経緯及び基本方針 （２）改訂の基本方針　⑤（ｐ4）	「文化」 「伝統」	・⑤ 伝統や文化に関する教育の充実
序章 第１節 改訂の基本的な考え方 ２ 改訂の要点 （３）「ねらい及び内容」の改訂の要点　③領域「環境」（ｐ8）	「文化」 「伝統」	・日常生活の中で，我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむことなどを「内容」に新たに示した ・文化や伝統に親しむ際には，正月や節句など我が国の伝統的な行事，国歌，唱歌，わらべうたや伝統的な遊びに親しんだり，異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通じて，社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養われるようにすることなどを「内容の取扱い」に新たに示した
序章 第１節 改訂の基本的な考え方 ２ 改訂の要点 （３）「ねらい及び内容」の改訂の要点　④領域「言葉」（ｐ9）	「言葉の…リズム」	・言葉に対する感覚を豊かにすることを「ねらい」に新たに示した ・また，生活の中で，言葉の響きやリズム，新しい言葉や表現などに触れ，これらを使う楽しさを味わえるようにすることを「内容の取扱い」に新たに示した
第２章　ねらい及び内容 第２節　各領域に示す事項 ４ 言葉の獲得に関する領域「言葉」 １ ねらい：解説部分（ｐ214）	「言葉の…美しさ」	・幼児が絵本を見たり，物語を聞いたりして楽しみ，言葉の楽しさや美しさに気付いたり，想像上の世界や未知の世界に出会い，様々な思いを巡らし，その思いなどを教師や友達と共有したりすることが大切である
第２章　ねらい及び内容 第２節　各領域に示す事項 ５ 感性と表現に関する領域「表現」 １ ねらい：解説部分（ｐ234）	「文化」	・幼稚園においては，日常生活の中で出会う様々な事物や事象，文化から感じ取るものやそのときの気持ちを友達や教師と共有し，表現し合うことを通して，豊かな感性を養うようにすることが大切である

※　　部分は，研究対象活動と判断した根拠となるキーワード。

まず，『幼稚園教育要領解説』の「序章」「第１節 改訂の基本的な考え方」「１改訂の経緯及び基本方針」「(2)改訂の基本方針」⑤の本文の内容に「伝統や文化に関する教育の充実」とあり，「ことわざや俳句を用いた保育」は，伝統や文化に関する教育の充実が期待できる。

次に，「序章」「第１節」「２改訂の要点」の（３）「ねらい及び内容の改訂の要点」③領域「環境」の本文から，「日常生活の中で，我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむこと」，④領域「言葉」の本文から，「言葉に対する感覚を豊かにすること」があげられている。

また，領域「言葉」のねらいの解説部分では，「幼児が絵本を見たり，物語を聞いたりして楽しみ，言葉の楽しさや美しさに気付」く。領域「表現」のねらいの解説部分には，「幼稚園においては，日常生活の中で出会う様々な事物や事象，文化から感じ取るもの」という豊かな感性を持つことが書かれている。

これらから，「ことわざや俳句を用いた保育」のねらいの一つは，「ことわざや俳句を用いた保育」を通して，日常生活の中で，我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむことで伝統や文化に関する教育の充実を図る。二つ目は，「ことわざや俳句を用いた保育」を通して，言葉の楽しさや美しさに気付いたり，言葉の響きやリズム，新しい言葉や表現などに触れたりし，言葉に対する感覚を豊かにする。このようなねらいが考えられる。

４.『幼稚園教育要領解説』において５領域の内容を踏まえた「ことわざや俳句を用いた保育」の具体的内容とその保育的意義についての考察

表６は,『幼稚園教育要領解説』における５領域の内容とのかかわりで挙げられている「ことわざや俳句を用いた保育」の具体的内容と保育的意義を整理したものである。

表６『幼稚園教育要領解説』において５領域の内容とのかかわりで挙げられる「ことわざや俳句を用いた保育」の具体的内容とその保育的意義

5領域	内容	具体的内容	保育的意義
人間関係	（１３）高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ（ｐ181）	・「昔の遊びを教えてもらったり」（文脈から判断） ・「昔話や高齢者の豊かな体験に基づく話を聞いたりする」（文脈から判断）	・「地域の人たちと積極的に関わる体験をもつことは，人と関わる力を育てる」
環境	（３）季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く（ｐ197）	・「地域や家庭の伝統的な行事に触れる機会をもつ」	・「季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く」
	（６）日常生活の中で，我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ（ｐ200）	・「幼児が，日常生活の中で我が国や地域社会における様々な文化や伝統に触れ」る ・「幼稚園生活で親しんだ伝統的な遊びを家族や地域の人々と一緒に楽しむ」	・「長い歴史の中で育んできた文化や伝統の豊かさに気付く」 ・「地域の人々との関わりを通して，自分たちの住む地域に親しみを感じたりする」 ・「家族や地域の人々と一緒に楽しむことなどにより幼児が豊かな体験をする」
言葉	（７）生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く（ｐ221）	・「声として発」する（文脈から判断） ・「幼児は，幼稚園生活において絵本や物語などの話や詩などの言葉を聞く」（文脈から判断） ・「幼稚園生活を通して言葉の様々な楽しさや美しさに気付く」	・「言葉の音を繰り返すリズムの楽しさ」や「言葉の音の響きの楽しさ」,「言葉の音の響きの美しさ」に気付くようになる ・「楽しい言葉や美しい言葉に出会う」 ・「言葉の感覚を豊かにしていくことにつながる」

※　　部分は，研究対象活動と判断した根拠となるキーワード。

※　　のないものは文脈から判断。

保育的意義は，保育内容「人間関係」,「環境」,「言葉」の中で見出される。そして，2018年から施行された『幼稚園教育要領』の「ねらい及び内容」の改訂の要点として新たに示さ

れた領域「環境」の内容（６）「日常生活の中で，我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。」や，同じく新たに示された領域「言葉」のねらいの内容が含まれている内容（７）「生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。」との関りで保育的ねらいが多く挙げられている。

表６に挙げられているように，「ことわざや俳句を用いた保育」の保育的意義として，「人と関わる力を育てる」，「自分たちの住む地域に親しみ」を持つ，「季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く」，「文化や伝統の豊かさに気付く」，「豊かな体験をする」，「言葉の音」の「リズム」や「言葉の音の響き」の「楽しさ」，「美しさ」に気付く，「言葉の感覚を豊かに」するをあげることができる。これらの記述から，文化や伝統の豊かさに気付くとか，言葉の楽しさや美しさに出会い，気付き，言葉の感覚を豊かにするとかに加えて，地域の人たちとかかわる力を育てたり季節の変化に気づいたりすることも意識する必要があると考えられる。

５．「ことわざや俳句を用いた保育」の配慮事項に関する考察

表３で抽出したキーワードを手掛かりに，「ことわざや俳句を用いた保育」の配慮事項を抽出したものが表７である。配慮事項は，保育内容の領域「環境」，領域「言葉」，領域「表現」にあった。

まず領域「環境」では，「季節感のある遊び」をすることで，「幼児が季節の変化に気付き，感じ取れるようにする」ことや「四季折々の地域や家庭の伝統的な行事に触れる機会をもつ」ことが大切である。また，領域「環境」［内容］（６）では，「様々な文化や伝統に触れ」，「文化や伝統の豊かさに気付く」ことや「伝統的な遊びを家族や地域の人々と一緒に楽しむ」ことがあげられている。さらに，「文化や伝統に親しむ際には，正月や節句など我が国の伝統的な行事，国歌，唱歌，わらべうたや我が国の伝統的な遊びに親しむ」とあり，文化や伝統に親しむ際に伝統的な行事や，伝統的な遊びを取り入れることが推奨されている。

次に領域「言葉」では，幼児が生活の中で，言葉の響きやリズム，新しい言葉や表現などに触れ，これらを使う楽しさを味わえるようにすることや，言葉が豊かになるようにするこ

表７『幼稚園教育要領解説』における「ことわざや俳句を用いた保育」の配慮事項の示されている項目とその内容

項目	配慮事項として挙げられている内容
領域「環境」［内 容］（３）：季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く（ｐ197）	・園内の自然環境を整備したり，季節感のある遊びを取り入れたりするなどして，幼稚園生活の自然な流れの中で，幼児が季節の変化に気付き，感じ取れるようにすることが大切である（ｐ197） ・かつては，地域の人々の営みの中にあふれていた季節感も失われつつある傾向もあり，秋の収穫に感謝する祭り，節句，正月を迎える行事などの四季折々の地域や家庭の伝統的な行事に触れる機会をもつことも大切である（ｐ197）
領域「環境」［内 容］（６）：日常生活の中で，我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ（ｐ200）	・幼児が，日常生活の中で我が国や地域社会における様々な文化や伝統に触れ，長い歴史の中で育んできた文化や伝統の豊かさに気付くことは大切なことである（ｐ200） ・幼稚園生活で親しんだ伝統的な遊びを家族や地域の人々と一緒に楽しむことなどにより幼児が豊かな体験をすることも大切である（ｐ200）

領域「環境」［内容の取扱い］（4）：文化や伝統に親しむ際には，正月や節句など我が国の伝統的な行事，国歌，唱歌，わらべうたや我が国の伝統的な遊びに親しんだり，異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通じて，社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養われるようにすること（p 211）	・文化や伝統に親しむ際には，正月や節句など我が国の伝統的な行事，国歌，唱歌，わらべうたや我が国の伝統的な遊びに親しむ（p 211）
領域「言葉」［ねらい］（3）：日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに，絵本や物語などに親しみ，言葉に対する感覚を豊かにし，先生や友達と心を通わせる（p 213）	・幼児が絵本を見たり，物語を聞いたりして楽しみ，言葉の楽しさや美しさに気付いたり，想像上の世界や未知の世界に出会い，様々な思いを巡らし，その思いなどを教師や友達と共有したりすることが大切である（p 214）
領域「言葉」［内容の取扱い］（4）：幼児が生活の中で，言葉の響きやリズム，新しい言葉や表現などに触れ，これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際，絵本や物語に親しんだり，言葉遊びなどをしたりすることを通して，言葉が豊かになるようにすること（p 229）	・幼児が生活の中で，言葉の響きやリズム，新しい言葉や表現などに触れ，これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際，絵本や物語に親しんだり，言葉遊びなどをしたりすることを通して，言葉が豊かになるようにすること（p 229） ・幼児が言葉を使って表現することを楽しむようになるためには，単に言葉を覚えさせるのではなく，日常生活の中で見たり，聞いたりしたこととそのときに聞いた言葉を重ね合わせながら，意味あるものとして言葉に出会わせていくことが望ましい（p 229） ・絵本や物語，紙芝居の読み聞かせなどを通して，お話の世界を楽しみつつ，いろいろな言葉に親しめるようにすることも重要である。特に語り継がれている作品は，美しい言葉や韻を踏んだ言い回しなど幼児に出会わせたい言葉が使われていることが多い（p 229） ・言葉を獲得する時期である幼児期にこそ，絵本や物語，紙芝居などを通して，美しい言葉に触れ，豊かな表現や想像する楽しさを味わうようにしたい（p 229） ・幼児期の発達を踏まえて，言葉遊びを楽しむことも，いろいろな言葉に親しむ機会となる（p 229） ・幼児の言葉を豊かにしていくためには，このような言葉を使った遊びを楽しむ経験を積み重ねていくことも必要である（p 230）
領域「表現」［内容の取扱い］（1）：豊かな感性は，身近な環境と十分に関わる中で美しいもの，優れたもの，心を動かす出来事などに出会い，そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し，様々に表現することなどを通して養われるようにすること。その際，風の音や雨の音，身近にある草や花の形や色など自然の中にある音，形，色などに気付くようにすること（p 244）	・この（主体的に関われる）ような環境としては，幼児一人一人の感動を引き出せる自然から，絵本，物語などのような幼児にとって身近な文化財，さらに，心を弾ませたり和ませたりするような絵や音楽がある生活環境など幅広く考えられる（p 244）

※　　部分は，研究対象活動と判断した根拠となるキーワード。

とのために，絵本や物語，紙芝居の読み聞かせに親しんだり，言葉遊びを楽しんだりする経験を積み重ねていくことが必要であるとある。また，「幼児が言葉を使って表現することを楽しむようになるためには，単に言葉を覚えさせるのではなく，日常生活の中で見たり，聞いたりしたこととそのときに聞いた言葉を重ね合わせながら，意味あるものとして言葉に出会わせていくことが望ましい。」とあり，親しむだけでなく日常生活と結びつくことも必要であるとされている。

領域「表現」では，幼児が感性を磨かれていくには，幼児が興味や関心を抱き，主体的に関われるような環境が大切であるとされ，その主体的に関われるような環境のひとつとして，「幼児一人一人の感動を引き出せる自然」，「幼児にとって身近な文化財」，「絵や音楽がある生活環境」などがあげられている。

６．「ことわざや俳句を用いた保育」に関する教育課程編成時の留意点

「ことわざや俳句を用いた保育」に関する国の基準を把握するため，『幼稚園教育要領解説』における関係記述を分析・整理した。そして，教育課程編成の際の「ことわざや俳句を用いた保育」に関する留意点について考察する。

まず，『幼稚園教育要領解説』の2018年の改訂により，新たに加えられた内容は，「序章 第１節 改訂の基本的な考え方　１ 改訂の経緯及び基本方針　（２）改訂の基本方針 ⑤」，同じく序章より，「第１節 改訂の基本的な考え方　２ 改訂の要点　（３）「ねらい及び内容」の改訂の要点　③領域「環境」」，この関係で領域「環境」の内容（６）が加えられている。そして，「序章　改訂の基本的な考え方　２ 改訂の要点　（３）「ねらい及び内容」の改訂の要点　④領域「言葉」」，その関係で領域「言葉」のねらいに「言葉に対する感覚を豊かにすること」が加えられたことと，領域「言葉」の内容の取扱い（４）が加えられた。これらのことは，改訂の基本方針や改訂の要点であることから，「ことわざや俳句を用いた保育」に関するねらいを示すと考えられる。

改訂の基本方針⑤や改訂の要点の③領域「環境」と要点の④領域「言葉」の本文，領域「言葉」のねらいの解説部分から次の二つのねらいが考えられる。一つ目は，「ことわざや俳句を用いた保育」を通して，日常生活の中で，我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむことで伝統や文化に関する教育の充実を図る。二つ目は，「ことわざや俳句を用いた保育」を通して，言葉の楽しさや美しさに気付いたり，言葉の響きやリズム，新しい言葉や表現などに触れたりし，言葉に対する感覚を豊かにする。このようなねらいが考えられる。

次に「ことわざや俳句を用いた保育」の保育的意義では，文化や伝統の豊かさに気付くとか，言葉の楽しさや美しさに出会い，気付き，言葉の感覚を豊かにするとかに加えて，地域の人たちとかかわる力を育てたり季節の変化に気づいたりすることも意識する必要があると考えられる。

そして，「ことわざや俳句を用いた保育」の配慮事項として領域「環境」では，「季節感のある遊び」をすることで，「幼児が季節の変化に気付き，感じ取れるようにする」ことや「四季折々の地域や家庭の伝統的な行事に触れる機会をもつ」とある。また，「様々な文化や伝統に触れ」，「文化や伝統の豊かさに気付く」ことや「伝統的な遊びを家族や地域の人々と一緒に楽しむ」ことがあげられている。さらに，文化や伝統に親しむ際に伝統的な行事や，伝統的な遊びを取り入れることが推奨されている。次に領域「言葉」では，幼児が生活の中で，

言葉の響きやリズム，新しい言葉や表現などに触れ，これらを使う楽しさを味わえるようにすることや，言葉が豊かになるようにすることのために，絵本や物語，紙芝居の読み聞かせに親しんだり，言葉遊びを楽しんだりする経験を積み重ねていくことが必要であるとある。また，「幼児が言葉を使って表現することを楽しむようになるためには」，親しむだけでなく日常生活と結びつくことも必要であるとされている。領域「表現」では，幼児が感性を磨かれていくには，幼児が興味や関心を抱き，主体的に関われるような環境が大切であるとされ，その主体的に関われるような環境として，「幼児一人一人の感動を引き出せる自然」，「幼児にとって身近な文化財」，「絵や音楽がある生活環境」などがあげられている。

Ⅴ．今後の課題

本研究により，「ことわざや俳句を用いた保育」に関する国の基準を把握したので，これらを要点として踏まえながら，実際の教育課程編成時に，その教育課程内の「ことわざや俳句を用いた保育」に関する部分全体で，Ⅳの内容が考慮されていることが求められる。

さらに，「ことわざや俳句を用いた保育」の教材研究が必要である。

言葉が豊かになるようにすることのために，絵本や物語，紙芝居の読み聞かせに親しんだり，言葉遊びを楽しんだりする経験を積み重ねていくために，ことわざや俳句の絵本・紙芝居，伝統的な行事や伝統的な遊びとしてお正月に良くされる「かるた」などは教材としてもよく使われる。

その他，親しむだけでなく日常生活と結びつくことも必要であることがいわれているので，前出の田中（2018）[(12)]の「保育内容『環境』の保育力を培うためのガイドブックとしての俳句歳時記」で「四季折々，日々の暮らしの中で俳句歳時記をガイドブックとして参照し，季語や例句を手掛かりとして，現実世界の自然や日本の伝統文化と実際にかかわり楽しむという経験を繰り返せば，いつの間にか『環境』領域の豊かな保育力が身につくはずである。」と書かれているように，絵本やかるたなどを通して俳句を聞いて絵を見てイメージするだけでなく実体験が伴ってこそより親しめると考えられる。例えば，春にタンポポの花を見つけたときに「たんぽぽや日はいつまでも大空に」と中村汀女の俳句が出てくる又は保育者が口ずさむというように実体験に繋げる。俳句は季語が入っていることから，このような実体験が四季折々の地域や家庭の伝統的な行事に触れる機会をもつことや季節感のある遊びにもつながる。

また，言葉の響きやリズム，新しい言葉や表現などに触れ，これらを使う楽しさを味わえるようにするには，五七五のリズムを感じるよう５文字・７文字・５文字で文章を作って遊んでみることも言葉遊びとして楽しめる。

このように，「ことわざや俳句を用いた保育」には，いろいろな遊びの展開が考えられる。よって教育課程編成時にはこうした留意点からの教材研究が必要であると考えられる。

引用・参考文献

(1) 中央教育審議会「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」『中教審第 197 号』中央教育審議会，2016。
(2) 田中俊明「保育内容「環境」の保育力を培うためのガイドブックとしての俳句歳時記」『子ども未来学研究』12，pp. 17-25，2018。

(3) 高野浩「新「幼稚園教育要領」における領域「言葉」の学びの内容と課題 - 言語文化の視点から -」『千葉経済大学短期大学部研究紀要』14，pp. 55-62，2018。
(4) 中央教育審議会，前掲(1)，pp. 13･79。
(5) 西本鶏介「「ことわざ」を楽しむ」(表紙カバーそで)，『ことわざのえほん』鈴木出版，2003。
(6) 西本鶏介「おうちの方へ「かるたでことわざを覚える日本のことわざかるた」」(解説文)『日本のことわざかるた』ポプラ社，2002。
(7) 玉川学園編『日本のことわざ物語２』玉川大学出版部，pp. 2-3，1985。
(8) 世界文化社グループ SEKAIBUNKA.COM 編集担当Ｍ「担当編集者からのおススメの一言」(『ことわざあいうえおかるた』の解説文)，http://www.sekaibunka.com/book/exec/cs/05839.html。(情報取得 2017/1/20)
(9) 西本鶏介「私の新刊 『続はいくのえほん』西本鶏介・編・文 清水耕蔵・絵--幼児も楽しめる俳句の本」『こどもの本』31(4)，日本児童図書出版協会，p. 2，2005。
(10) 塩見恵介監修『俳句・短歌・歳時記大事典』あかね書房，pp. 2･48，2015。
(11) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館，2018。
(12) 田中俊明，前掲(2)，p. 19。